



第15号

2013年
慈英病院
広報誌

慈英病院の理念

真心込めた医療を提供し、皆様に愛される病院を目指します

楽しいお正月

おせちとお屠蘇

今年は、巳年です。へビは、古来より知恵や財産をもたらす神様として崇められてきました。また、「脱皮→再生」のイメージから、強い生命力を想像され、不老不死のシンボルでもあります。今年も、元気で、明るい一年を過ごせますように、「おいしい！おせち」と「お屠蘇」を元旦にお出しました。「おせち」は、それぞれの食材にいろんな意味を込めてあります。「黒豆」は、一年中まめに働けますように！「数の子」は、子孫繁栄を。「田作り」は、豊作を願い。「海老」は、腰が曲がった海老が長寿の印象で、長寿の意味をこめて。「レンコン」は、穴があいたレンコンには、先を見通せるようにとの意味があります。また「お屠蘇」は、中国の唐の時代に日本に伝えられ、「屠」は邪気を払う意味、「蘇」は心身を目覚めさせ蘇らせるという意味があります。一年間の長寿健康を祈願しましょう。



乾杯～！
良い一年で
ありますよ
うに…。



夫婦二人で
いつまでも
仲良く♡



お屠蘇で
すよ～。
美味しい
ですか？

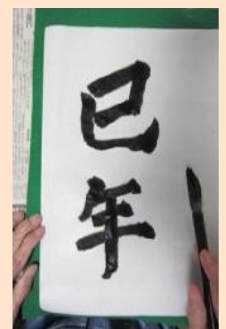


今年も楽し
く過ごしま
す！

書初め



患者様に、少しでも季節感を感じて頂けたら…という思いで、レクリエーションの時間に「書初め」をして頂きました。皆さん、とても上手でした。



節分とは

2月3日は「節分（せつぶん）」ですね。節分とは本来、「季節を分ける」つまり季節が移り変わる節目を指し、立春・立夏・立秋・立冬それぞれの前日に、1年に4回あったものでした。ところが、日本では立春は1年のはじまりとして、とくに尊ばれたため、次第に節分といえば春の節分のみを指すようになっていったようです。

立春を1年のはじまりである新年と考えれば、節分は大晦日（おおみそか）にあたります。平安時代の宮中では、大晦日に陰陽師らによって旧年の厄や災難を祓い清める「追儺（ついな）」の行事が行われていました。室町時代以降は豆をまいて悪鬼を追い出す行事へと発展し、民間にも定着していきました。節分には豆をまきますが、これは中国の習俗が伝わったものとされています。豆は「魔滅（まめ）」に通じ、無病息災を祈る意味があります。昔、京都の鞍馬に鬼が出たとき、毘沙門天のお告げによって大豆を鬼の目に投げつけたところ、鬼を退治できたという話が残っており、「魔の目（魔目＝まめ）」に豆を投げつけて「魔を滅する（魔滅＝まめ）」に通じるということです。

豆まきは一般的に、一家の主人あるいは「年男」（その年の干支生まれの人）が豆をまくものとされていますが、家庭によっては家族全員で、というところも多いようです。家族は自分の数え年の数だけ豆を食べると病気にならず健康でいられると言われていました。

ただ、豆まきに使う豆は炒った豆でなくてはなりません。なぜなら、生の豆を使うと拾い忘れた豆から芽が出てしまうと縁起が悪いからです。「炒る」は「射る」にも通じ、また、鬼や大豆は陰陽五行説（「木」「火」「土」「金」「水」の五行）の「金」にあたり、この「金」の作用を滅するといわれる「火」で大豆を炒ることで、鬼を封じ込めるといわれています。そして最後は、豆を人間が食べてしまうことにより、鬼を退治した、ということになるわけですね。

当院では受付をはじめとして廊下やギャラリー、食堂・・・季節ごとに様々なものが展示はしてありますが節分といえばやはり豆まき♪

今年も鬼がやってきたので退治していただきました。

「鬼は外～福は内～」威勢の良い掛け声と共に豆まきを行う事でみなさまの無病息災を願いました。



私の生活歴

今年より倫理委員会にて新しい取り組みを行うことになりました。

当病院に入院された当日、本人様または、ご家族の方に15分～20分程度のお時間を頂き、11項目のご質問をさせて頂きたいと考えています。

お聞きしたことを通じて、より深く患者様を理解することで、スムーズなコミュニケーションを取ることができます。また、初めて来られる環境に少しでも早く慣れて頂くように、居心地の良い環境作りをしていきたいと思っています。私達は、患者様の毎日の生活の中に、常に寄り添ったケアができることを目標にしています。

取り組みを始めたばかりで至らないことも多いと思います。私達は、一生懸命に取り組んで日々のケアに満足頂けるように努めていきますので、よろしくお願い申し上げます。

ご質問を行う11項目の内容と、実際に患者様よりお聴きした内容をご紹介します。

今回は、「私の生活歴」を活かして、ケアがどのように変わったかをご紹介します。

「私の生活歴」

(事例1) K様 女性 86歳

質問内容

患者様からの回答

- 1 性格
- 2 仕事
- 3 食事の習慣
- 4 喫煙・飲酒の習慣
- 5 毎日の習慣
- 6 身だしなみ・お風呂
(湯の温度、歯磨き回数、ひげそり)
- 7 おしゃれ・色の好み
- 8 得意な事・苦手な事
- 9 好きな事・物
- 10 趣味・関心・遊び
- 11 入院中にしたい事



- ・気が強い、正直者
- ・事務の仕事で30年以上勤めた
- ・毎日3食 和食好き ゴウヤが苦手
- ・若い頃、付き合い程度でお酒を飲んでいた
- ・特にはありません
- ・温泉が好きで老人会でも温泉に行っていた

- ・紫色が好み
- ・簿記(2級を持っている) 珠算
- ・習い事で書道を行っていた
- ・洋裁 ゴルフ
- ・自分の足でトイレに行けるようになりたい
- ・外出をして家に帰りたい
- ・天気が良い日に散歩に行きたい

◎患者さんの貴重なお話をご紹介します。私たちは、しっかりと受け止めていきたいと思っています。

私たちは、どうあるべきでしょうか？ 患者さんにどう接して行くべきでしょうか？

84歳男性(イレウス疑い、喘息治療で現在ご入院中です)

警察官(鑑識係)として、20歳から38年間勤めて参りました。入院から2週間が経過しました。突然、「今日は帰る。タクシーを呼んで帰る」と言われました。「情けない」「情けない」と繰り返されます。自分自身が思うままにならないから。腹が立って仕方がない。黙って人のすることを見ていました。情けなくて仕方がない。自宅に帰った方がよい。自宅に帰られて何をされたいですか。と問うと「書を書く」「絵も描きたい。へたくそだけど」自由にしたいわけでないが、人と争いを起こしたくない。人とトラブルを起こしたくない。食堂でも話さないようにしている。自分自身がそうしている。情けない…情けない…自分自身に情けない。もう病院におらん方がよい。涙が出る。病院職員には注文はしない。ご手がかかない。自分自身を治さないといけない。人のせいにはしない。何故こんなめにならんといかんのか。病室にいて天井をみて、眠れずに情けのないな～と考えていた。自分のうちのベッドでゆっくりしたいな～と思うようになった。だから、家に帰ろうと踏み切ったのです。あんた達を責めるわけではないよ。昔は部下を使って仕事をしてきました。指導監督をしてきた、今は、情けない…自分自身が情けない。帰って大好きな猫の世話をしていきたい。自分自身が幸せと感じられるのは、自分の思うままに生きることでしょうか？と問うと…いや、そうではない。世の中の決まりは守りながら。最低限は、自分は自分で守る。これが幸せよ。何年か先は、私はあの世に行くよ。自分自身が情けない。残り少ないから、猫の世話をして盆栽をして、生きていきたい。体が衰えていくことは分かっている。いつまでも生きようとは思わない。だからこそ、今日は、帰らんといかんよ。

「PM2.5」情報

日本に影響を与える恐れのある「PM2.5」の飛来に対応するため、環境省は「PM2.5」について、「1日の平均で1立方メートル当たり35マイクログラム以下」という環境基準値を設けた。だが、日本政府の当局者は基準値を超えた場合の対応策は制定していない。

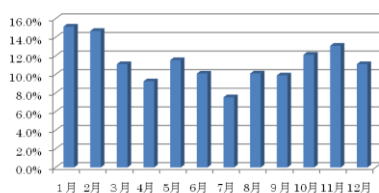
PM2.5は、車の排気ガスや工場から出る煙などに含まれる、直径が1000分の2.5ミリ以下の微粒子です。人が吸い込むと、呼吸器系や循環器系の病気を引き起こすと指摘されている。この微粒子の観測値が、九州などでも一時的に上昇している。過去3年間、日本でPM2.5の濃度が環境基準値の2倍以上に達したケースは数回発生している。日課にしている屋外トレーニング、ジョギングやテニス、野球、サッカーなどは室内トレーニングに切り替えるか中止が賢明でしょう。

PM2.5を99.99%阻止できるマスクが販売されているようです。また、再利用可能なものもあるようです。しっかり情報を確認しておきましょう。

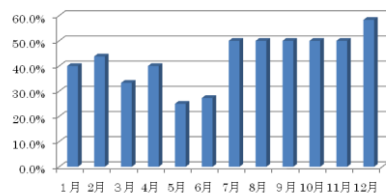
褥瘡(床ずれ)対策

私たちの病院では、「褥瘡は絶対に予防しよう」を目標取り組んでいます。褥瘡の出来やすい部位の2時間以上の圧迫はしない。体位変換を行う時は、移乗用シートを使用し、摩擦やズレを起こさないように工夫しながら毎日の看護・介護の実践に努めています。しかし、お尻(仙骨部)を観てみると赤くなっていたりします。赤くなくても褥瘡(床ずれ)です。日々の葛藤ですが、頑張っています。まだまだですが、現状をお知らせ致します。

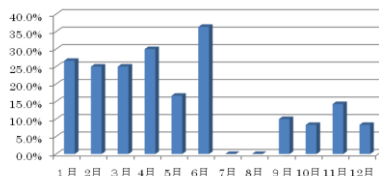
褥瘡患者数存在率



持ち込み率



治癒率



平成24年中の全入院患者における、褥瘡発生状況及び治癒状況



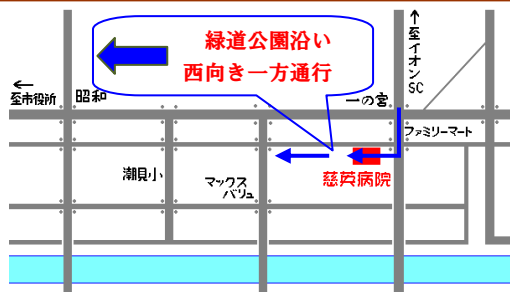
腫のズレに伴う褥瘡予防(実際に体験)
移乗用シート2枚 下腿部にクッションで予防実現

家族教室のご案内

いつまでも、食べる楽しみを患者様、御家族に持って頂きたいと思い「家族教室」を下記の日程で予定しております。今回は、実際に試食していただきながら行いたいと思います。たくさんの方の参加をお待ちしております。



開催日 : 平成25年3月16日(土曜日)
 開催場所 : 2階 東館 食堂
 開催時間 : 14:00~15:00
 内容 : 「誤嚥させない食事介助」
 講師 : 言語聴覚士 川越綾子



慈英病院

診療科目: 内科・神経内科・リハビリテーション科
 〒880-0853 宮崎県中西町160番地
 TEL 0985-23-5000 FAX 0985-23-5886
<http://www.jiei.jp> e-mail info@jiei.jp

編集委員

江藤裕子 高瀬祐枝
 竹迫彩 横山恵美子
 黒木咲野 清泰蔵
 砂地優宏 黒松和子
 角畑エイ子 平賀絹代
 中野麻美 東洋一